

○山の洲とは

→静岡県、山梨県、長野県、新潟県の4県連携による新たな広域経済圏

○販路開拓に向けた取組

1 地域資源・強みを活かした消費喚起

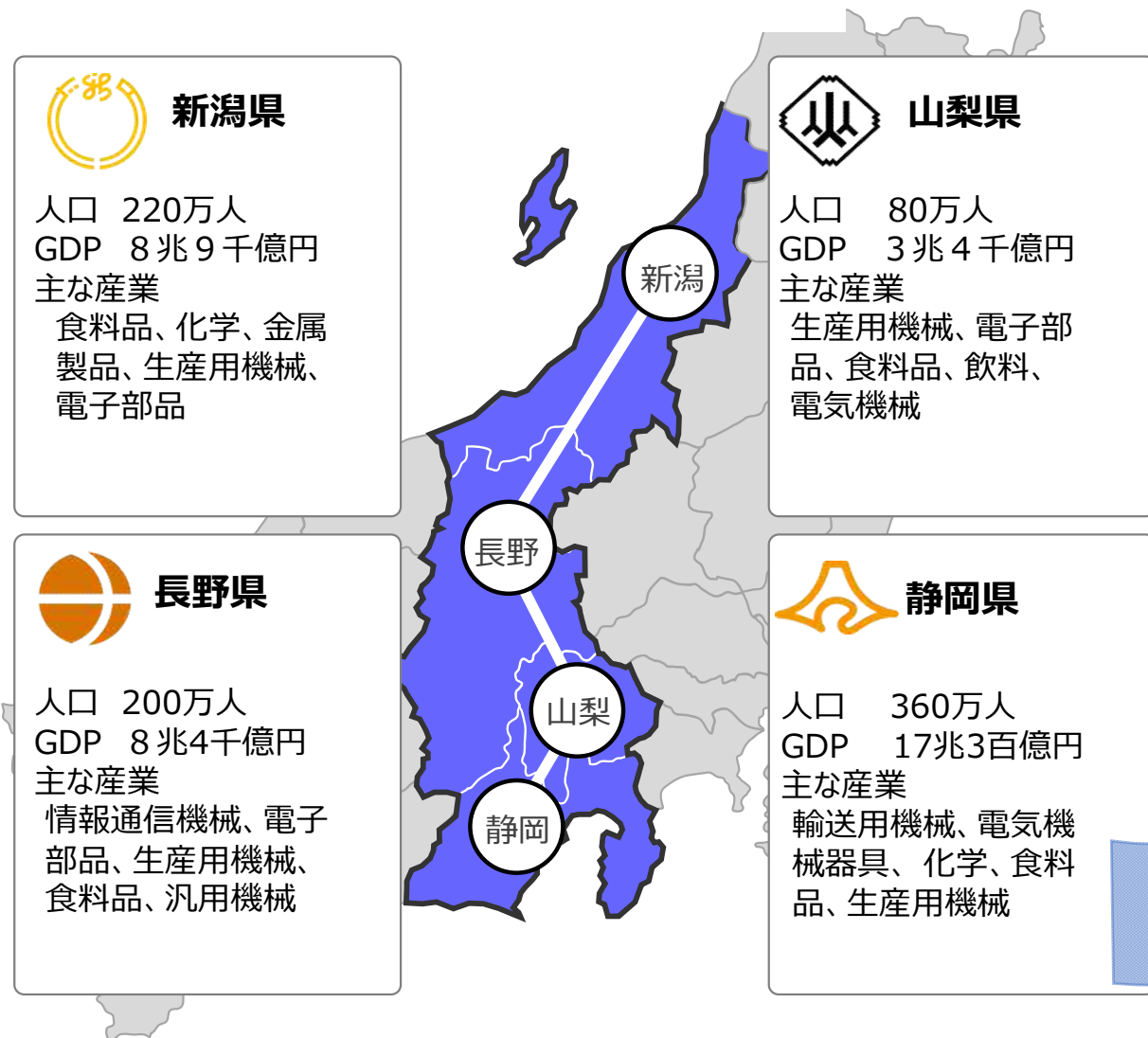
- ・ GDPの5割以上を占める個人消費を喚起して経済をけん引
- ・ 「バイ・シズオカ」、「バイ・ふじのくに」、「バイ・山の洲」を積極的に展開
- ・ 利他と自利で支え合う新しい消費スタイルを目指す

2 中部横断自動車道を活用した新たな商流・物流網の構築

- ・ 農林水産品の域内完結型サプライチェーンを形成
- ・ 4県の強みを活かして海外市場を開拓

山の洲 4 県の概要

- 静岡県、山梨県、長野県、新潟県の4県の人口は約 8 7 0 万人
- GDPは約 3 8 兆円規模の経済圏で、ノルウェーに匹敵



静岡県は陸海空の玄関口

- ① 中部横断自動車道
8月29日全面開通
- ② 新東名高速道路
新御殿場IC~御殿場JCTが開通
- ③ 国道138号バイパス
新御殿場IC~須走南ICが開通
- ④ 富士山静岡空港、清水港など
空と海の港が完備

1 地域資源・強みを活かした消費喚起

○「バイ・ふじのくに」：事業者や農業団体などとの連携による取組が活発化



静岡県の取組

- ・ R2.7月
岡島百貨店(甲府市)でのメロンの販売会
- ・ R2.9月
山梨県庁前での
静岡物産展の開催
- ・ R3.1月～2月
山梨県市川三郷町の小中学校
給食にみかんを提供
- ・ R3.6月
道の駅しらね(南アルプス市)
での牧之原茶の直売会



山梨県の取組

- ・ R2.10月
青葉公園(静岡市)での山梨物産展の開催
- ・ R2.10月
西伊豆町、小山町の小中学校
給食にぶどうを提供
- ・ R3.6月
静岡伊勢丹でのさくらんぼの
直売会



静岡県と山梨県の連携

- ・ R3.1月
「バイ・ふじのくに」
新春特別メニューの
提供



- ・ R2.11月～2月
県産品詰め合わせ宅配
(ふじのくに愛情パック)



- ・ R3.7月
静岡伊勢丹での
物産展で両県の
特産品販売



- ・ R3.9月 → **11月へ延期**
道の駅富士川で中部横断自動車道開通記念
「つながる市」を開催予定

2 中部横断自動車道を活用した新たな商流・物流網の構築

○山梨県内の量販店との成功事例を長野県に展開（流通事業者との連携）

①R2 山梨県への青果物商流・物流ルート構築

・静岡市中央卸売市場の仲卸業者との連携

オギノ物流センターまでの定期便ルートを開設（週2便）

・オギノのバイヤーとのオンライン商談会の開催

新規3社・13商品が成約



②R3 長野県に向けた商流・物流ルート構築

・長野県の有力量販店バイヤーとのオンライン商談

・長野県、新潟県等に拠点をもつ流通事業者と連携

○民間の取組も拡大

・静岡銀行・山梨中央銀行の包括業務提携

県内スーパーと静岡・山梨の生産者等との商談会

・清水銀行とやさいバス(株)の業務提携

長野の朝採れレタス、静岡の水産物の相互配送ルートを検討



2 中部横断自動車道を活用した新たな商流・物流網の構築

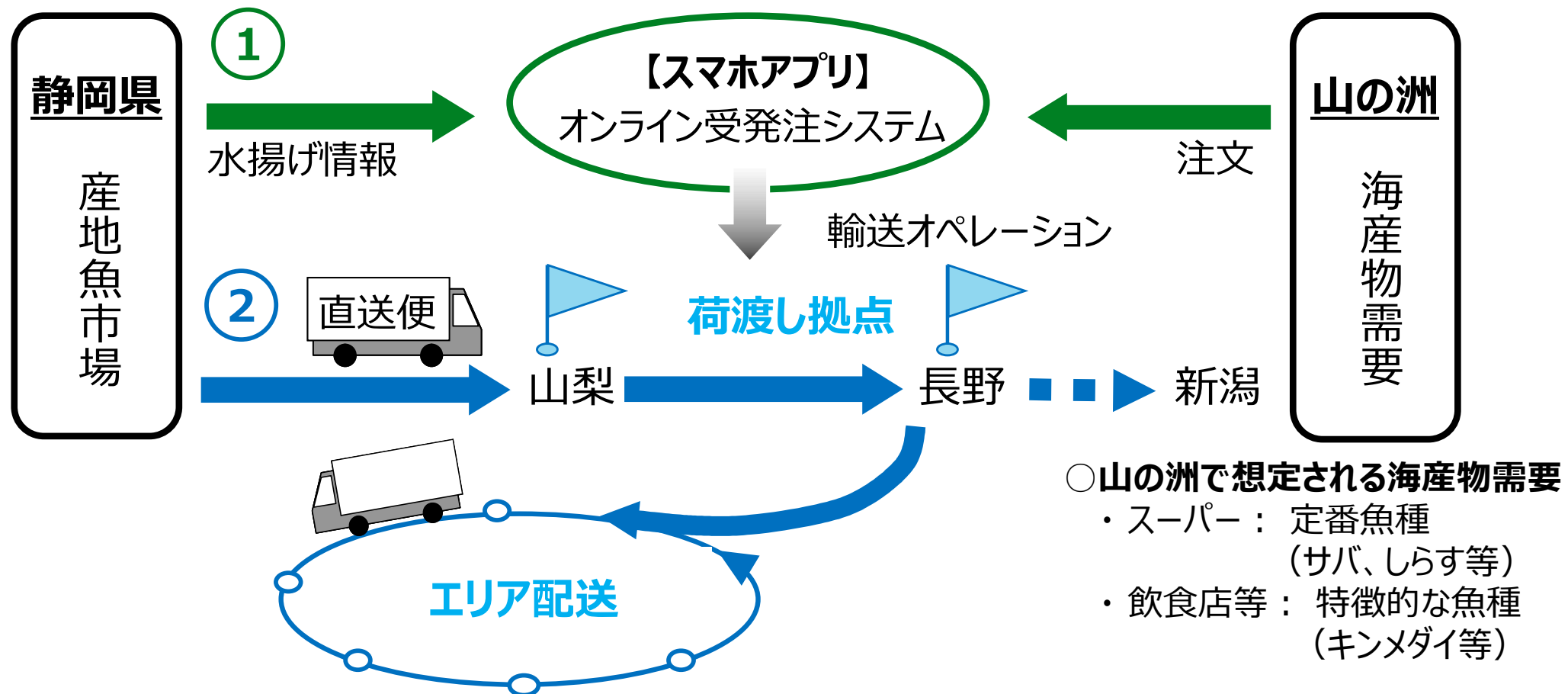
○「IT × 物流」でつなぐ水産物の高鮮度サプライチェーン 3年目の実証

① ITを活用した商流づくり

スマホアプリを活用した産地の出荷者と山の洲のスーパー、飲食店等とのマッチング

② 中部横断自動車道を活用した物流づくり

出荷当日中に荷渡し可能な、短時間輸送・高鮮度流通モデルの構築



2 中部横断自動車道を活用した新たな商流・物流網の構築

○コロナ禍においても輸出額は増大

<ポイント>

- ・1-7月期食品輸出額6,740億円（前年比31%）
- ・食品輸出額は13カ月連続で右肩上がり



（シンガポール J-mart: 日本酒樽ディスプレイ）

7月農林水産物・食品の農林水産物・食品の輸出額を公表した。前年同月比28%増の9億7億円で、13カ月連続で前年を上回った。新型コロナウイルス下で続く巣ごもり需要の取り込みに加え、落ち込んでいた外食需要の回復が後押しした。主力品目の日本酒や牛肉がけん引し、国別では米国と中国向けが大きく伸びた。

品目別で伸びが目立った日本酒は同107%

輸出額右肩上がり 日本酒、牛肉けん引

2021年の主な農林水産物・食品の輸出額と前年比増減率

品目	7月		1~7月累計	
	金額(億円)	前年比	金額(億円)	前年比
牛肉	48	98%	272	115%
牛乳・乳製品	23	19%	140	5%
鶏卵	5	66%	31	35%
豚肉	1	▲5%	10	28%
米	5	27%	32	4%
桃	9	23%	13	26%
ブドウ	4	15%	10	19%
リンゴ	1	91%	67	68%
サツマイモ	2	41%	12	25%
日本酒	35	107%	210	94%
緑茶	17	24%	113	37%
花き	1	▲70%	62	▲17%
農林水産物・食品の合計	967	28%	6,740	31%

▲はマイナス、前年比と前年同期比は増減率
※農水省の資料を基に作成

増の35億円となった。これまで外食中心だったが、家庭内まで需要が広がった。畜産物では牛肉が同23%増、ブドウが同15%増となった。一方で、花きは苦戦。乳製品が同19%増の23億、同70%減の1億円。中国が同63%増の20億円で月別、年累計でも首位になった。3位の米国も同52%増の137億円と大きく伸びた。同省は「特に中国と米国向けで、コロナ下の内食、外食需要を取り込めた」（輸出企画課）と分析する。2位の香港は183億円で3%減った。

農林水産物・食品の1~7月の累計は前年同期比31%増の6740億円となった。

中国が同63%増の20億円で月別、年累計でも首位になった。3位の米国も同52%増の137億円と大きく伸びた。同省は「特に中国と米国向けで、コロナ下の内食、外食需要を取り込めた」（輸出企画課）と分析する。2位の香港は183億円で3%減った。

（出典：日本農業新聞）

2 中部横断自動車道を活用した新たな商流・物流網の構築

○東南アジアでは果物が人気



(香港:YATA)



(シンガポール: DonDonDonki)



(台湾: Citysuper)

2 中部横断自動車道を活用した新たな商流・物流網の構築

○R3の取組① 中部横断自動車道開通商圏拡大事業（ソフト）

山の洲産品を清水港から輸出する仕組みを構築する事業者を支援

<ポイント>

- ・事業費3,000千円×3者
- ・生産から販促まで幅広く支援

R3 募集終了

R4 継続予定

輸出先国	対象商品	課題
香港、シンガポール	農林水産物	・鮮度保持、混載
台湾	農林水産物	・鮮度保持 ・残留農薬規制対応
ベトナム	加工食品	・輸出拡大

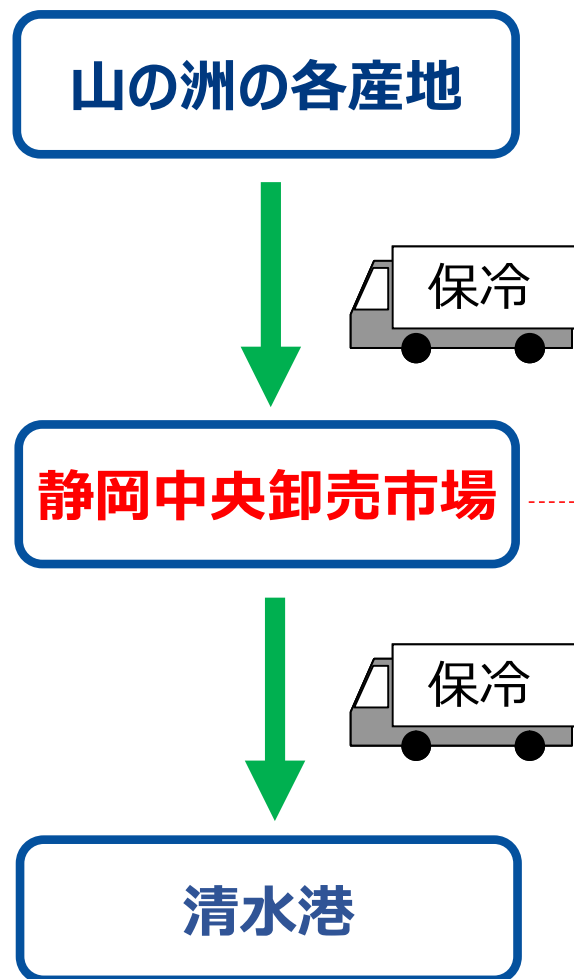
コールドチェーン維持、多品目混載、輸出対応園地、
鮮度保持技術、産地リレー等の実証を継続して実施
→ 清水港における輸出ノウハウの蓄積



2 中部横断自動車道を活用した新たな商流・物流網の構築

○R3の取組② ドックシェルター整備によるコールドチェーン確保（ハード）

静岡VF(株)が、国事業を活用し、静岡中央卸売市場のドックシェルターを整備
→産地から清水港までのコールドチェーンを確保



【課題】

静岡中央卸売市場の
冷蔵倉庫からコンテナへ
積込む際、コールド
チェーンが途切れる。



【対応】

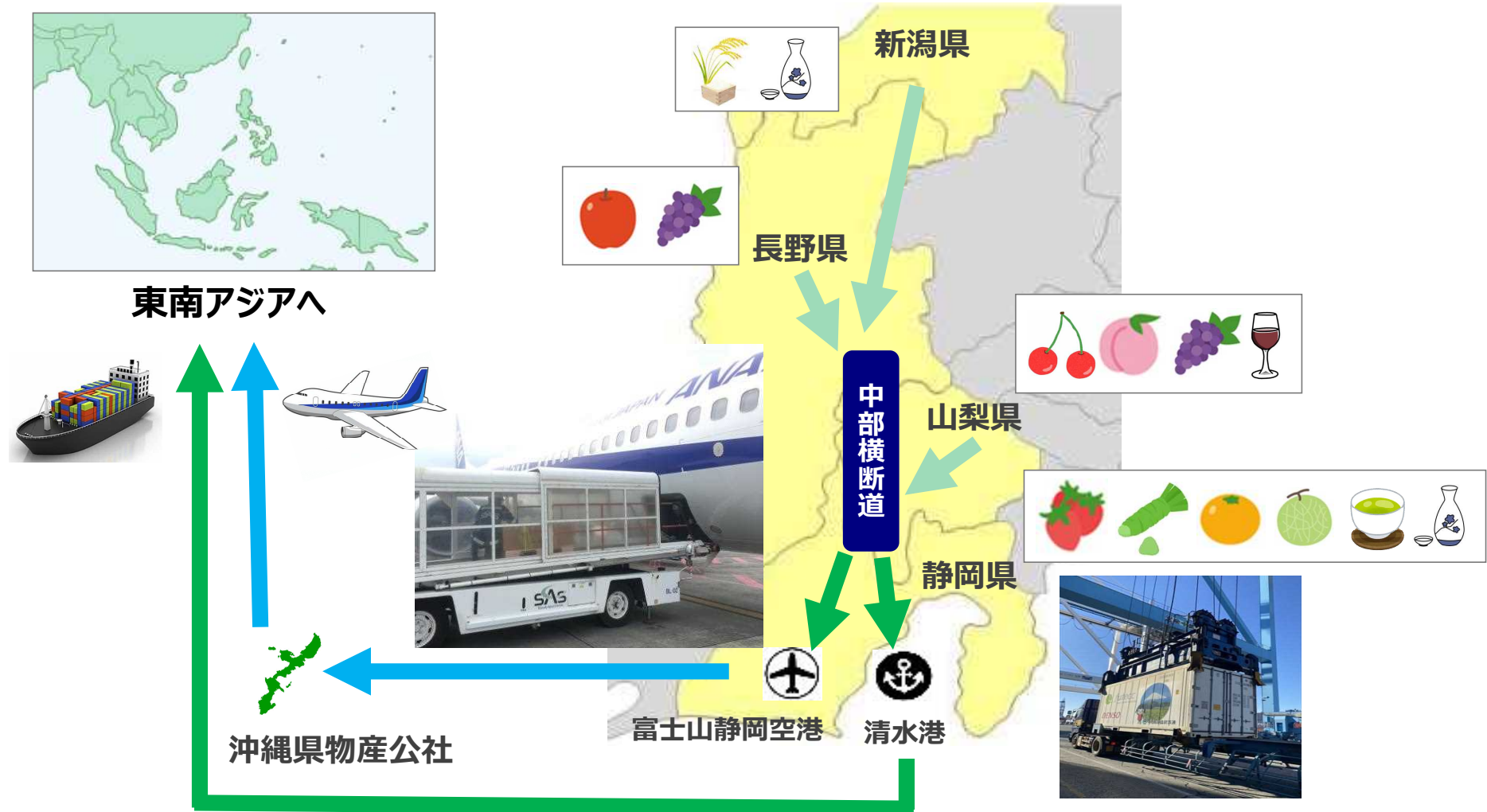
コンテナへ積込む際の
気密性を保持する
ドックシェルターを整備



(出典: 金剛産業(株) HP)

今後の展開

○清水港、富士山静岡空港を山の洲産品の輸出拠点化



- ハード、ソフト両面から輸出に必要な機能を集約、強化
→ 高品質な輸出環境の整った輸出拠点化により輸出拡大へ繋げる